

「初秋の八島湿原 (10)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

湿原歩きは、基本的に平坦な木道続きで、あまり疲れない。しかし木道というものは、どこでも道端で休めるといわけにはいかず、お弁当も開けない。



幸い「元キャンプ場」の草っ原が、そのまま開放されている。遠くにゆるやかな丘が見えて、抜群のピクニックエリアだ。この日も、何組かの家族連れが初秋の日差しを楽しんでいた。



シラヤマギク *Aster scaber* も多かった。控えめな花だが、高原や北方地に分布し、ロシアにも広く分布する強い種である。極東のアムール川流域や、ウスリー地方にも自生している。そういう異国の地で、この花をもう一度見てみたいと思った。



今回の湿原歩きは、林間学校の下見が目的だ。湿原一周でも良いのだが、少し単調で、時間も足りない。元キャンプ場の広場で引き返すプランに決めた。もと来た道を引き返すのは、一見面白くないようにも思える。しかし、山道というものは、行きと帰りでは、風景が全くちがって見えるものである。



これは、八島ヶ原湿原の池塘の一つ、「鎌ヶ池」だ。空の青を忠実に反映しているのがすばらしい。



往復で約1時間のおおらかな湿原歩きが終わって、最後に「ビジターセンター・あざみ館」の展示を見た。湿原の動植物のことが、コンパクトに展示してある。